



明日は楽しみ？

ある日の昼休み、2年生女子2名が、本を大事そうに抱えて図書室から出てきた。どんな内容の本なのか聞いてみると、「〇〇が△△で、とても面白いですよ」と。自分があまり読んだことのないジャンルだったが、面白そうだ。読書が好きで、本を大事に扱っている感じが感じられて、とてもいいなと思った。図書室には、面白そうな本がたくさん並んでいる。新刊も多く、中学生だけでなく私たちも楽しめる本がたくさん並んでいる。図書室を有効に使わないのはもったいないと思い、自分も2冊ばかり借りてきた。

「おあとがよろしいようで 喜多川奏 著」の中の言葉を紹介。

「明日が来るのが楽しみになるくらい準備する」

仕事がつまらなくて、仕事以外が楽しいじゃ人生つまらない。だから、人生を楽しむために仕事の時間も楽しむようにする。そのために、仕事をちゃんと楽しむ準備が大事。ちゃんと準備をしておけば、明日が来るのが楽しくなる、という話。学校の授業も、ちゃんと宿題や予習をしていくと、その授業が楽しみになってくる、とある。

確かに、与えられた課題が間に合っていないと、学校(仕事)へ行くのが嫌になるだろう。では、なぜ人は準備(宿題)を怠るのだろうか？

「問いかけが仕事を創る 野々村健一 著」には、次のような言葉があった。

「閉塞感ある社会では、リスクをできるだけ潰す考え方に縛られ、何かをやらない/できない理由を考える天才が増える」

どうせ分かんから、やっても無駄だから、とマイナス思考に陥っていると、やらない理由、できない理由を考える天才が増えるようである。

やらない理由、できない理由を考える天才が増えると、閉塞感はさらに高まり、息苦しい社会、職場、学校になりそうだ。やらない理由を探す天才にならないよう注意していきたい。

同著にグーグル元 CEO エリック・シュミット氏の言葉があった。

「私たちは答えではなく、問いかけで会社を経営している」

「どうすればできるか」と問いかけを掛け合わせて企業を経営しているという。やらない理由を考えるのではなく、「どうすればできるか」と考えていくと、プラス思考が働いて、明日が来るのが楽しみになり、会社(学校)もグーグルのように成長できる？

とはいえ、いつも宿題や仕事のことばかり考えていたら休まる暇がない。最後に、最近読んだ漫画「今日も絵に描いた餅がうまい」の台詞を紹介。

**空を見上げてきれいだと思うこと 食べたことのない物の味が気になること
特に用事も無く散歩をすること**

そういう無駄は無くしちゃいけない無駄で、そういう無駄を食べて僕らの心は生きている

心のゆとりを大切にし、心が生きる無駄を食べつつ、明日が来るのが楽しみになる準備をしていきたいものです。

師走の青空を見上げて、「きれいだな」と思う時間も大切にしていきたいと思います。